

文教厚生常任委員会 町内視察

参加議員（三田、廣崎、茂呂、高畑、宮本）

上毛町社会福祉協議会と懇談会を行いました

11月2日(金)

上毛町社会福祉協議会は、昨年4月に坪根事務局長が着任、田島会長が6月に退任され、8月に磯貝新会長を迎える、理事7名、評議員10名（昨年の法改正で正式な議決機関）で運営しています。

柱となる事業は、大きく分けて本部事業と地域福祉事業を事務局長以下職員3名で兼務しながら運営しています。他に臨時職員2名、図書館には嘱託職員1名と臨時職員1名と地域福祉活動指導員が1名います。業務的には非常にタイトで職員の募集もしているようです。

げんきの杜と図書館は町の指定管理を受け、また11月12日に地域包括支援センターが社協事務所と同じフロアに移転しています。社協が担う地域福祉事業などかなり共通する部分があり、情報共有をうまくやりながらより良い福祉施策を充実させる努力が求められています。町からの委託事業としては、一人暮らし高齢者等見守り事業、地域介護予防活動支援事業、配食サービス事業、生活支援コーディネーター業務（本年度より）、コミュニティバス運行事業などです。

浴場、トレーニングルームで特筆すべきは、町内の利用者が少ないことです。浴場は1日平均10名前後で、トレーニングルーム利用者ともに1割にも満たないのが現実のようです。今後の課題ともいえます。職員の補充により、今後の運営に期待するものです。



広報特別委員会 研修会

参加議員（高畑、宮本、三田、宮崎、廣崎、田中、岩花）

町村議会広報研修会に参加しました

11月14日(水)

福岡県自治会館で行われた本年度の研修会に参加しました。

グラフィックデザイナーの長岡光弘氏を講師に迎え、議会広報誌の内容の充実とレベルアップが求められる中、今回は「読まれる議会だよりの編集と表現のポイント」をテーマにクリニックも含めた研修でした。

まず、「報告」重視の紙面から脱却して、進化を遂げる必要があること。議会と住民とのコミュニケーションツールであるという考え方で、住民のための議会だよりであり、今後、広報委員一同で一層の努力を重ね、住民に読んでいただける議会だよりに成長させていきたいと思いました。



宮本 理一郎

三田 敏和

岩花 寛之 議員

今後の農林業に対する施策は

坪根町長

未来に向かった在り方を検討



問 上毛町の担い手農家の状況は。

坪根町長 農業、林業とともによく売れて儲かるモデルケースがまだ見つかっていないことが若手の就農に繋がっていないと考える。ふるさと納税の成功体験のように、全国の先進地を研究調査し、未来に向かった農業の在り方を考えていって今後に期待して欲しい。

問 現在260件以上の空き家がある、5件しか空き家バンクに登録できていない状況を解決する方法は。

坪根町長 利用希望が43件あったが紹介可能な空き家バンク登録数は5件しかなく、今後も空き家調査を行い、バランスを良くしたい。

問 現状の需要と供給のバランスは。

坪根町長 現時点ではコモンパーク彩葉のような分譲地整備や、ミニ開発できる町有地を優先している。

こうげまち 議会だより 2019年2月号 12

円入課長 認定新規就農者が4名、毎年1名の育成を目標にしており、新規就農者への農地が少ないと。特に認定農業者はほとんどが60歳を超えており、後継者の育成と集落営農法人の合併などが課題と考えている。

円入課長 高齢化の進行と、土地利用型農業が主体の集積が進んでおり、新規就農者への農地が少ないこと。特に認定農業者はほとんどが60歳を超えており、後継者の育成と集落営農法人の合併などが課題と考えている。

円入課長 過去の一般質問で執行部から検討すると発言のあつた事項について進捗を確認したい。空き家対策については。

堀企画情報課長 今年4月に住民課が行った所有、管理状況のアンケート調査をもとに、空き家バンクの登録の推進を図っていきたいと考えている。

堀課長 現在260件以上の空き家がある、5件しか空き家バンクに登録できていない状況を解決する方法は。

坪根町長 利用希望が43件あったが紹介可能な空き家バンク登録数は5件しかなく、今後も空き家調査を行い、バランスを良くしたい。

こうげまち 議会だより 2019年2月号 12

問 現在260件以上の空